

ぎふ花と緑の振興コンソーシアム（岐阜県）

協議会構成団体：岐阜県園芸特産振興会、岐阜花き流通センター農業協同組合、岐阜県グリーンサービス協同組合、岐阜生花市場協同組合、全国農業協同組合連合会岐阜県本部、花キューピット岐阜支部、岐阜県（農政部）他、企業会員39、学会会員11、行政・団体会員22

対象品目

切花
フランネルフラワー
鉢花
ローダンセマム
セルリア



フランネルフラワー



ローダンセマム



セルリア

< 取組内容 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- ローダンセマムの出荷期間を現行より1か月程度早めるため、植物の根の伸長効果が確認されている高濃度酸素水の供給装置を導入し、苗生産に与える影響について実証により検証した。
- セルリアについては、LED照射することで開花抑制による出荷の平準化と長期化を図った。

- ローダンセマムは、高濃度酸素水を7月下旬のセル苗に給水することで発芽率2割が上がり、酷暑期の苗生産が安定。これにより出荷期間が1か月前倒しとなり、10aあたり出荷量が7.7%増加。
- セルリアは、花芽形成前にLEDを照射することで出荷時期が延伸し10aあたり出荷量が9.5%増加。



無し 有り
酸素供給装置（ローダンセマム）



LED照射（セルリア）

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

【花育体験等】

- 花きの活用促進を目的として県内の小学校・特別支援学校40校を対象花き文化団体や生産者が講師となり種まきやフラワーアレンジなどの実習を行った。
- 花育体験教室を各地域で開催し、体験に合わせフランネルフラワーをはじめとする県産花きを紹介した。

【花いけバトル】

- 若年層の花きの消費拡大を目的として、若年層がスポーツ感覚で花を楽しむ「花いけバトル」という新しい花文化を全国に発信するため、高校生による花いけバトルのデモンストレーションを行った。
- 若年層への県産花きの普及・消費拡大を目的として、花いけバトル合同練習会で、県産花きを中心とした花材で作品作りに取り組んだ。

【花育体験等】

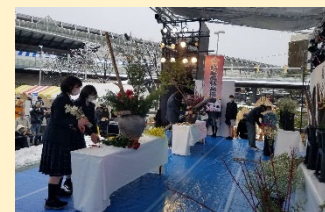
- 種まき体験は、8月31日～10月19日までに、36校の989人が体験した。
- フラワーアレンジなどの体験は、11月1日～2月9日までに40校の1,153人が体験した。
- 参加者に、県内の生産者や県内で生産している花きについての紹介をDVDや講師を通じて紹介することで、県内産花きの認知度が向上した。

【花いけバトル】

- 公共施設等を利用したイベントで「フラワーデモンストレーションfeat.花いけバトル」を開催し、岐阜県産花きを紹介することで県産花きの認知度が向上した。
- 花いけバトル合同練習会で県産花きを中心とした花材を利用することで県産花きの装飾方法を学び、利用定着につながった。



寄せ植え装飾体験



フラワーデモンストレーションfeat.花いけバトル

< 今後の取組予定 >

- ローダンセマム、セルリアの出荷期間と出荷量の調査を継続するとともに、岐阜県農業技術センターと連携しながら、新技術の実証を進める。
- 学校花育については、県教育委員会、花き文化団体と協力しながら参加校数を増加させる。
- 高校生花いけバトル全国選抜大会等を通じて、若年層へ花き文化振興を図る。

愛知県花きイノベーション地域協議会総会（愛知県）

協議会構成団体：愛知県花き温室園芸組合連合会、愛知県経済農業協同組合連合会、愛知県花き卸売事業協同組合、一般社団法人愛知県花き市場組合、愛知県豊明花き流通協同組合、三河生花協同組合、名古屋生花小売商業協同組合、愛知園芸商組合、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会愛知県支部、日本ハンギングバスケット協会愛知県支部、中日いけばな協会、特定非営利法人花文化を無形文化遺産に推める会、あいち花マルシェ2022実行委員会、参加希望花き関係団体、豊橋市、豊川市、田原市、愛知県

対象品目

切り花：キク、バラ、カーネーション、グロリオサ、デルフィニウム
鉢物：アジサイ、シクラメン、ポインセチア、コチョウラン、シンビジウム、秋用花壇苗



< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

【カーネーション】

- カーネーションは、夏季の高温による開花時期の遅延とそれに伴う出荷量の不安定化や品質の低下が問題となっている。
- 夏季のミスト噴霧によりカーネーションの開花遅延軽減、品質向上効果を実証した。
(供試品種：カーネアノウ1号)

【バラ】

- 需給バランスのミスマッチが問題となっており、需要期における国産花きの供給量増大、非需要期における流通量調整による供給量の平準化を図る。
- エチレン吸着資材を使用したバラ（品種 サムライ）を2週間冷蔵貯蔵し、貯蔵後及び開花時に品質が維持されているか検証した。

【カーネーション】

- ミスト噴霧により、ハウス内温度の低下(1~2℃程度)、相対湿度の上昇(10%程度)、植物体の表面温度の低下(サーモグラフィによる調査のため数値省略)が確認できた。
- 図1のとおり、ミスト区の方が開花時期は前進し、年内の収穫本数も約3割増加した。
- 下垂度は小さく、切り花重は重く、着色花蕾数は増加する傾向がみられた。
- 秋季の開花遅延及び品質低下の対策として、ミスト噴霧が有効であることが示唆された。

【バラ】

- 2週間冷蔵貯蔵後の調査では、無処理区で花卉にしみが生じていたのに対し、エチレン吸着資材使用区（以下、使用区）では無発生とすることができた。
- 貯蔵終了後、低温管理下（5℃前後）で水揚げした開花1週間後の調査では、灰色かび病の発生率が無処理区で27%に対し、使用区は10%程度に抑えることができた。
- 実証の結果から、エチレン吸着資材の使用は一定の効果があり、実用化の可能性が見込まれた。

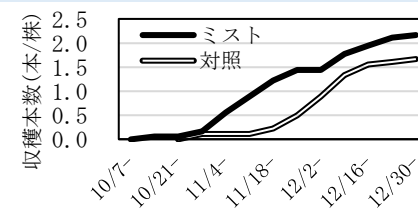


図1 収穫本数 (本/株)

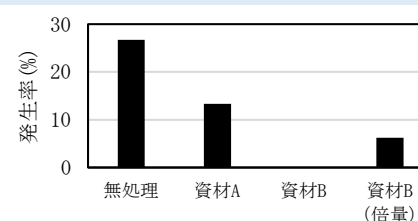


図2 開花1週間後の灰色かび病発生率

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- 本県産花きの認知度向上と需要拡大のため、異業種コラボプロモーション等を実施した。
- 業務需要のイメージが強い洋ラン類のホームユース需要の開拓を図るため、ハウジングセンターとコラボした展示を行った。

- モデルハウスでコチョウランやシンビジウム、パフィオ、カトレア等を展示し、種類の豊富さや管理の手軽さをPRした。また、自宅で飾りやすい「洋ランの苔玉仕立て」を作る体験教室を開催した。
- 過去1年間と今後1年以内に購入する花の金額をアンケート調査したところ、1000円以上と答えた人の割合は、過去1年間が78.2%だったのに対し、今後1年以内は91.3%と13%増加した。



図3左：展示の様子、右：体験教室の様子

< 今後の取組予定 >

- 産地の生産力向上のため、実証した栽培試験の成果を県内生産者へ情報提供していく。
- 需給バランスの改善に向けて、今後も長期貯蔵の実証を行い、実用化を目指す。
- 本県花きの認知度向上と花を飾る・贈る文化の定着に向けて、若年層の購買意欲を高めるプロモーションを実施していく。

花の国づくり三重県協議会 (三重県)

協議会構成団体： 三重県花植木振興会、三重県花商組合連合会、(公社)日本フラワーデザイナー協会三重県支部、三重県インドアグリーン協会、(一社)日本ハンギングバスケット協会三重県支部、三重県園芸福祉ネットワーク、(一社)JFTD58花キューピット三重支部、株式会社伊勢生花地方卸売市場、三重県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、三重県ボランティア連絡協議会、(公社)三重県観光連盟、三重テレビ放送株式会社、株式会社伊勢新聞社、三重県市長会、三重県町村会、三重県

対象品目

切り花：バラ、ガーベラ
観葉植物、鉢もの類、
花壇苗、県産花き花木全般



花育の作品

< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 花きの生産性向上・流通の効率化等の取組

- シクラメン生産において、夏期の異常高温による生育の著しい低下が課題となっていることから、野菜や花きに対して環境ストレス耐性の向上効果が報告されている5-アミノレブリン酸配合肥料の施用による夏期の生育停滞低減効果の実証。
- 共通規格台車の導入による花き輸送コストの削減効果に関する実証。

- シクラメンの鉢上げ作業後に、5-アミノレブリン酸配合肥料の濃度を2,500倍と5,000倍に変えて'パステル'と'F1'の2品種で試験した結果、1品種で草高、株容積、葉数等の生育量が高くなる傾向が見られたことから、濃度や施用回数、施用時期を変えることで、生産現場で活用できる可能性があるかと判断できた。
- 苗物、洋ラン、観葉植物の生産者5名で共通規格台車を試験導入した。出荷時期によって品目が異なるため単純な比較はできなかったが、1ケース当たりの作業時間を算出した結果、生産者が事前に出荷物を台車に積載することで、3名で運送業者の集荷時間が4~27%短縮された。また、短縮できなかった生産者は、少量の出荷物を複数の市場に出荷する際に、台車をそのまま積載せず他の荷物と混載する等の時間がかかることが要因であると考えられた。



台車の
実証試験

2 花きの消費拡大・利用定着の取組

- 県産植木の展示会を開催し、実需者に植木産地をPRすることで認知度向上を図り、新規販路の拡大を目指す。
- 小中学生を対象に、対象品目の県産花きを用いた花育教室を行い、若年層の新規需要の創出を目指す。
- 花き以外の林業関係や高等学校等と連携し、異業種コラボによる消費拡大イベント「みえ花フェスタ2022」を開催した。
- 人の往来のある施設周辺に県産花きを使用した寄せ植えを花きの情報及び管理方法とともに展示することで、県産花壇苗、花木について、県民へのPR及び県民への利用機会の提案をした。

- 県内の花植木生産者28名が展示会に参加し、市場12社の買参人90名に植木産地のPRを行った結果、約370万円の新規取引につなげることができ、販路の拡大を図ることができた。来場した市場の買参人のアンケートから、48%が満足・やや満足することができた。
- 花育を体験した合計577名の児童生徒へのアンケートから、花育体験後に36%が以前よりも花やみどりに興味をもつようになった。
- 県産花き花木を使った飾花展示やフラワーアレンジメントや寄せ植え体験を実施し、来場者にアンケート調査を行った。イベントに参加することで、回答者の90.3%が、園芸への関心がすごく高まった。
 - 高まったという結果となった。
- 寄せ植えの作製、展示の活動に参加した方へのアンケートから、普段から花や緑を育て、飾らないと回答した35%の方に、興味をもってもらうことができた。



展示会



みえ花フェスタ

< 今後の取組予定 >

・花き物流検討会の開催。

・生産者間で共通規格台車の台数調整を行う体制整備に向けた実証。

- ・ホームユース向けに需要のある樹種の増殖の効率化・安定化を図る。
- ・県産花き花木の展示を行うとともに、全国花き市場の買参人との商談を実施する。
- ・県内で消費拡大イベントを開催し、花への関心が低い消費者の来場を促すことで、新たな需要の創出を図る。
- ・環境モニタリングシステム導入によるガーベラ生産の出荷ロスの低減と品質統一化に向けた実証。
- ・バラの紫外線照射によるうどんこ病抑制効果試験
- ・洋ランの赤色LEDを用いたアザミウマ類防除効果実証試験